

(8) 美味しまね認証を核としたGAPの推進

1. 取組の必要性（背景）

- 食の安全・安心への関心が高まる中、食品安全、環境保全、労働安全等の取組基準を定め、記録、点検、評価を繰り返しつつ生産工程の管理や改善を行うGAP (Good Agricultural Practice：農業生産工程管理) の取組が、生産者サイド・消費者サイドの双方から評価されています。
- 2020年東京オリ・パラ大会も契機として、全国的にGAPの取組が増加する中で、流通業界から要求されるGAPの水準も次第に上昇しています。
- 島根県では、平成21年に県版GAP認証制度である「美味しまね認証（安全で美味しい島根の県産品認証制度）」を創設しており、平成31年1月には、全国の都道府県GAPで初となる国際水準GAP相当の上位基準「美味しまねゴールド」を設けました。
- 他県に先駆けて高い水準のGAPを実践・普及することは、実需者や消費者の信頼向上に寄与し、農林水産品の販売・販路拡大につながるとともに、経営上のリスク対策、生産コスト削減、作業効率の向上、農作業安全・労働環境の改善等を通じて経営改善にも有効です。

■国際水準GAP認証経営体数の推移 (R2.3末現在)

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020
全国 (※1)	2,838	4,340	4,593	4,864	5,437	-
島根 (※2)	0	1	1	1	5	119
うち美味しまねゴールド	-	-	-	-	-	109
(参考) 美味しまね認証 (基本認証)	139	149	174	270	415	379

GLOBALG.A.P.

ASIAGAP

JGAP

国がドライ(H24)準拠

その他GAP(JA等)

↑

↓

G 国
A 際
P 水
準

美味しまねゴールド

美味しまね認証(基本認証)

※1 GLOBALG.A.P+ASIAGAP+JGAPの合計
 (一社)GAP普及推進機構および(一財)日本GAP協会公表資料もとに加工
 ※2 島根県調べ

■美味しまね認証の基準数の比較 (青果物の場合)

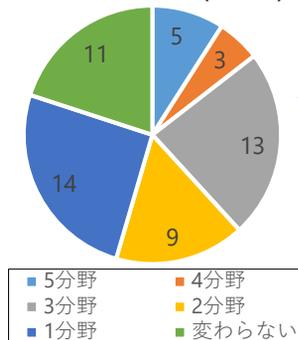
	ゴールド認証	基本認証
経営全般	32	11
農作物の安全	64	32
環境への配慮	9	13
作業者の安全	16	7
人権福祉と労務管理	4	0
計	125	63

※3 JGAPの基準数は120項目

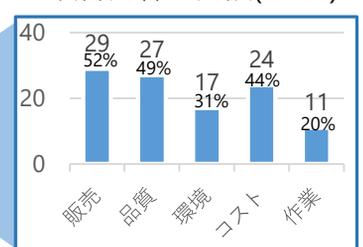
■販売・経営面の改善効果 (H29美味しまね認証取得者アンケート調査)

改善が期待できる5分野	主な効果
販売	売り上げが伸びた 販路が拡大した 販売単価が上がった
品質	単収が向上した 品質が向上した クレーム数が減少した
環境	農業投入量が減少した 肥料投入量が減少した
コスト	資材の不良在庫が減少した 生産コストが削減できた 商品の欠品や在庫が減少した
作業	作業時間が短縮できた 作業遅延が減少した

認証によって改善された分野数 (n=55)



改善内容の内訳 (n=55)



- ・80%の生産者が経営改善効果ありと回答。
- ・複数分野による多面的、複合的な効果あり。
- ・販売面での押し上げ、生産コスト低減や作業効率の向上などで経営改善に役立っている。

2. これまでの進め方の課題

- G A P（都道府県G A Pを含む）認証経営体数は全国第6位の反面、国が推進する「国際水準G A P」の認証数（経営体数）は「美味しまねゴールド」を含めても38経営体（全国第24位）にとどまっています。また、平成30年度の農業産出額に占める美味しまね認証製品の割合は14.1%で、伸びは年1%程度に過ぎません。
- G A Pの取組そのものや、流通サイドから評価されるレベルの高いG A P（国際水準G A P）の取組が伸び悩んでいる原因としては、次のようなものがあると考えています。
 - ① G A Pは安定的な農業経営を実現するために必要不可欠な取組であるものの、これまで県自身が、意欲や関心のある生産者に普及すれば十分と考え、全県的・網羅的に取組を拡大していこうという考えに至っていなかった。そのため、関係機関や団体と連携して実施する地域段階での推進も不十分だった
 - ② 全国に先駆けて県版G A P「美味しまね認証」を創設し、G A Pを志向する生産者に同認証の取得を勧めてきたため、結果的に、認証を取得した多くの生産者のG A Pレベルが「美味しまね認証（基本認証）」レベルに留まってしまい、国際水準G A Pへの対応が遅れた
 - ③ G A Pという新たな取組についての普及啓発が不足し、生産者がG A Pの経営改善効果や、経営・生産工程管理の必要性を実感できるような環境整備が十分ではなかった。また、流通、販売、食品製造の各事業者や消費者等に対する認証制度P R等も不十分で、生産者が販売面でのメリットを感じることも殆どできなかった

■都道府県別のG A P認証数（農産物）
 (ASIAGAP+JGAP+都道府県GAP) R1.11末時点
 ※都道府県GAPは国ガイドライン(H24)準拠

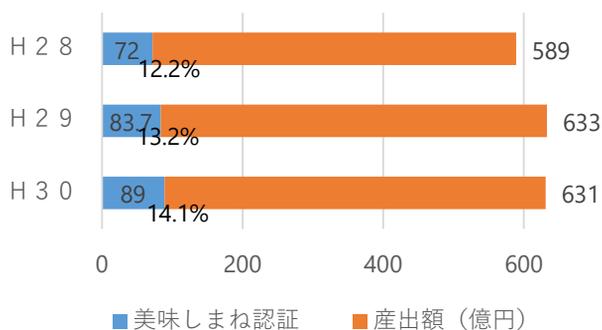
順位	都道府県名	経営体数	都道府県GAP
1	鹿児島県	9,607	8,741
2	静岡県	3,300	1,138
3	山梨県	2,589	2,578
4	熊本県	607	483
5	福島県	527	98
6	島根県	352	347
全国計		20,552	14,659

■都道府県別の国際水準G A P認証数（農産物）
 (ASIAGAP+JGAP+美味しまねゴールド) R2.2末時点

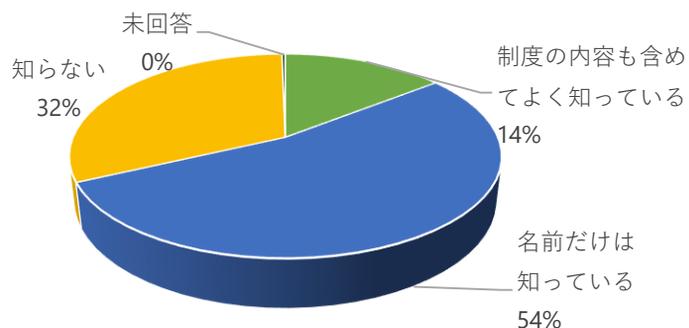
順位	都道府県名	経営体数	ASIAGAP	JGAP	都道府県GAP
1	静岡県	2,586	1,259	1327	-
2	鹿児島県	917	565	352	-
3	福島県	898	446	452	-
4	北海道	290	54	236	-
⋮					
24	島根県	38	1	5	32
全国計		6,582	2,603	3,955	32

*農林水産省「農業生産工程管理（GAP）に関する情報」

■県の農業産出額に占める認証品の割合



■美味しまね認証の認知度
 しまねwebモニター調査結果 (H31.1)



3. 今後の進め方のポイント

流通・販売側から高く評価されるGAPの取組推進

マーケットが求めるGAPの高度化への対応、担い手の生産・経営体制の強化を図るため、認定新規就農者、認定農業者、集落営農法人等の担い手や産地を重点推進対象とし、上位認証「美味しまねゴールド」を含む「国際水準GAP」認証取得を進めます。

「美味しまね認証」は、令和2年度からの新規認証は「美味しまねゴールド」のみとします。「基本認証」については現認証期間に限り有効とし、最終的に令和5年度末までに「美味しまねゴールド」一本の認証制度へと移行します。

また、すべての国・県単事業において「国際水準GAP」認証の取得を要件化し、県としてGAP取組の拡大を強力に推進します。なお、花や繁殖牛など「美味しまねゴールド」で基準のない品目は、国のガイドライン等に準拠した農場管理を求めることとします。



島根県観光キャラクター「しまねっこ」 島根産特産品1630号



初の「美味しまねゴールド」認証書交付式(R元.7)

「美味しまねゴールド」しまねっこコラボマーク

(1) 認定新規就農者等の担い手のGAP認証取得推進

GAPの取組は、農業経営上のリスクの把握と対策策定、生産資材や機械等の適正管理等に併せて、取組の中で作成した記録の分析に基づく生産性向上、コスト低減を進めるなど、経営改善の有効な手法となります。

県では、認定新規就農者や認定農業者、集落営農法人等の担い手が当たり前のように「美味しまねゴールド」を含む「国際水準GAP」を取得する環境づくりを進めます。



認証取得したいちごの認定新規就農者



認定新規就農者の認証品の販売状況 (スイートコーン)

(2) 団体認証の推進

個々の担い手が単独で認証を取得しても、産地全体や共販グループ全体で取得しなければ販売に生かせず、その効果は半減してしまいます。販売面でのメリットを発揮するためにも、製品の共同販売を行う産地やグループの構成員全員で団体認証を取得することが大切です。

生産者団体等と連携して、産地全体を対象とした研修会や普及活動を強化し、特に今後産地化を進める水田園芸、販売戦略を持って「こだわり米」等の生産に取り組む米産地、JAの生産部会等を重点対象として推進します。



団体認証を取得した品目例

(3) 指導・審査体制の整備

県・JA等のGAP指導員を育成し、県内9地域にある地域GAP推進協議会による認証取得支援を強化します。

また、指導手法の高度化・効率化に向け、指導マニュアルの改訂や指導資料の共有化、指導員対象の実践的研修などを実施します。

これまで県が行ってきた現地審査・監査については、より高度なGAP認証と認証取得数の増加に対応するため、外部機関と連携して専門性の高い審査体制を構築します。



普及員による認証取得指導

(4) GAPに取り組むメリットが実感できる販売環境の構築

消費者、流通業者、小売店等における美味しまね認証制度の認知度が高まり、認証品の消費拡大が進むよう、マスメディアを活用したキャンペーン等のPR活動を強化します。

また、令和2年度からGAP・美味しまね認証の取組を評価し、取引・支援いただける県内外の流通・販売事業者を「美味しまねパートナー店（仮称）」と位置付け、認証取得者に魅力ある販路を確保します。県主催の商談会への出展、マーケティング、商品改良等のアドバイスを受ける機会の提供などについても、GAP・美味しまね認証取得者を重点的・優先的に支援します。



キャンペーンテレビCMの一場面



商談会での美味しまねブース

4. 5年後の目指す姿

成果指標

主たる担い手（認定農業者＋認定新規就農者）に占める国際水準GAP認証者数の割合を、5年後に50%以上

【参考】現況値 0.2%（平成30年度末時点）



- 主要品目（青果物（茶含む）、畜産物（肉用牛・鶏卵）、林産物（きのこ））の産出額の50%以上について、「国際水準GAP（美味しまねゴールド含む）」を取得
【参考】現況値 0.6%（平成30年度末時点）